

良い親子関係は幼児期に

「一日三分間の家庭漢字学習法」を毎日欠かさず三か月間実行して、順調に進めば、学習漢字の数は90字を超えるはずです。休まずに実践するということは、たとえ僅かでも偉大なことを容易にやっけるものですね。

それだけに、ついうかうかと無為に日を過ごすとは、実にもったいないことであり、長い間には取り返しのつかないほど大きな損失をしていることとなります。一日三分間という時間の偉大な働きには、全く驚かされます。

ところで、皆さんの中には、この漢字学習を喜んでやっていたらっしゃる子供さんもいれば、反対に、少しも喜ばない子供さんもいらっしゃると思います。喜んでやる子供は、容易に漢字を覚えますが、喜んでやらない子供は、なかなか漢字を覚えないものです。この場合、親の方も面倒くさくなって途中でやめてしまいがちです。

今までに、80字以上90字までの漢字が読めるようになったお子さんの場合は、大変結構です。そういうお子さんなら、漢字がうまく行くだけでなく、どんなことをさせてもうまく行くからです。一事が万事とい

う言葉通り、漢字が子供の能力を開発するからです。

しかし、80字までに至らなかったお子さんの場合、特に、途中でやめてしまったお子さんの場合は“要注意”です。これも一事が万事ということになりますから、このまま放置していると、それこそ取り返しがつかない事態になってしまいます。思い切った生活態度の切り替えがぜひ必要です。

およそ物事の好き嫌いという応のは、最初の第一印象で決まってしまうことが多いものです。だから、最初の漢字の提示の仕方がとても大切です。子供の関心に訴え、興味をそそるように工夫することが必要です。また、お母さん自身が、いかにも楽しくて仕方がないような様子を見せ、楽しい雰囲気作りをすることも必要です。

そうしないで、もしもお母さんが、子供を勉強に向かわせるのだというような意識で始めたり、また、事務的な処理でもするような態度でやったりしたなら、必ず失敗するに違いありません。

この漢字学習は、子供が良い子であったことの褒美としてやる性質のものであって、子供に義務として課すべき性質のものではないのです。漢字の意味が理解でき、漢字が読めるようになるということは、子供にとってこの上もない誇りであり、大変な喜びなのです。

ところが、これが義務として課せられることになると、それはもう喜びでも楽しみでもなくなるのです。ちょうどそれは、お金持が人を無料で自分の車に乗せることは喜んでやりますが、お金を取って仕事としてやるのだったら、いくら大金を積まれても決してやる気にならないのと、同じようなものです。

だから、「昨日は、お前はほんとに良い子だったわね。それで御褒美に、今日はこの漢字を教えてやりましょう。この字はね、お前の大好きな桃、“もも”という字よ。この字はね、中学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんでもまだ習わない字なの(これは事実です)。でも、××ちゃんは覚えて読めるようになれるわね。では“もも”って読んでごらんささい」というように語りかければ、喜んで、張り切って漢字に立ち向かうはずです。

関心と反復が記憶を強化

すでに述べましたように、記憶は、関心の強さと、反復の回数とによって作られるのですから、強い関心を向けずにはられないような工夫をしてやるのが大切です。幼児期は最も記憶力の強い時期

ですから、強い関心で目にした漢字は、僅か一回、ただの一瞬間でも覚えることが出来るものです。

これに反して、子供が漢字に全く関心を示しませんが、どんなに多くの時間をかけ、どんなに頻繁にくり返して教えてやっても、決して覚えるものではありません。「心ここにあらざれば見れども見えず」で、それを大脳が受けつけないからです。

もしもこのような状態を毎日くり返していると、子供はますますこの学習を嫌うようになり、漢字そのものを嫌うようにさえなるでしょう。

良い親子関係は幼児期に作られます。この時期に良い親子関係を作っておきませんと、骨が折れるだけで、子供は少しも良くなりません。

子供の指導に計画性も一貫性もなく、思いつきの行き当たりばったりでは子供は悪くなるのが当然です。

親と子が、それぞれの生活を楽しむ一方で、漢字学習を通じて共に睦み合い楽しむならば、子供は立派な社会人に成長していくでしょう。この中で、子供が自由を発揮する面と、その反対に、欲望をおさえなければならぬ生活の両面があることを理解させたら、必ず立派な子供に育つと思います。